

関東ふれあいの道 神奈川県 No.7「大磯・高麗山のみち」(会山行)

(報告) KM

◎期日： 2024年12月14日（土）

◎メンバー：OT (L) NH IK KM SM

大磯は、高麗若光が渡来した地と言われる。高句麗が唐・新羅の連合軍に滅ぼされたのは668年である。その10年ほど前の660年には、やはり百済が滅ぼされている。白村江に大敗した倭国軍は百済の多数の遺民を連れ戻ったという。かの遺民は先行してこの地に移住していたのかもしれない。東アジアの激動の歴史である。

高麗若光は、宝豊3年（703年）に文武天皇より従五位下及び王（こきし）のカバネ与えられたという。そのお墓は、大磯より遠く離れた埼玉県日高市にある高麗氏の菩提寺である聖天院勝楽寺にある。

これは、霊亀2年（716年）武蔵国、東海道など諸国から高句麗人を移住させ、高麗郡が設置されたことによる。若光もその際に移住したと言われる。日和田山の際だったか、一度訪れたことがある。その院の舞台から見る風景は高麗郷が一望できる国見のような風景だったように思う。

関東の古代は、かつて転勤の際に廻った大和や九州ほど馴染みがなく想像することが難しい。唯、関東に残る「コマ」などの地名だけを見ても、彼ら渡来人が大きく関与しただけは確かなようである。

年も押し寄せまった晴れた日、大磯駅に10:00に集合した。この地を知悉するOTさんに案内頂けることになった。陽射しが暖かく眩しい。海に迫った山塊に続く道は別荘地のような家々が連なる間に間を行く。穏やかで和らぐ風景である。山の標高は、高麗山（168m）、浅間山（180.9m）である。標高の割には山深く感じる。稜線を行くと緑深い自然林の急斜面が切り立って落ちている。どこからでも容易に上がるものではない。

1時間余りを歩き、尾根から少し下ったところに、山腹に横穴が幾つか空いている。楊谷寺谷戸横穴墓群である。7世紀頃の古墳で、切妻造り家型天井で、床平面が方形の古いものから、断面がアーチ型の新しいものまで十数穴が混在しているという。この時代の古墳で、この様にきれいに形式だて作られているものはあまりないのではと思わせる。

かつて飛鳥で、規模は異なるが、やはり7世紀の古墳で、凝灰岩の巨石をくりぬいて2つの墓室を設けた特異な内部構造で知られていた古墳を見に行ったことがある。が、当時の保存状況による印象かもしれないが、あのような磨かれた技術でくり抜かれてはいなかった様に思う。ちなみにその古墳は、近年の発掘調査によって、天武・持統陵と同じく八角墳であることが



楊谷寺谷戸横穴墓群

判明し、天智・天武の母とされる斉明（皇極）天皇と皇女の合葬墓である可能性が高いとされる。それは置くとしても、楊谷寺谷戸横穴墓群は、高麗山の中腹にある位置や年代から行っても、朝鮮半島からの渡来人がかかわった古墳である様に思える。

横穴墓群を離れて尾根道に戻り暫く行くと、高木が生い茂り遮られていた視界が一気に広がる湘南平に着く。展望台からは関東平野や相模湾、丹沢、箱根の山々が一望できる。海も山も近いこの景色は湘南ならではの位置関係からのように思う。ここまでは車でも上げられることから家族連れやカップルも多く穏やかな風景が広がっている。ここまで一緒したIKさんが、所用で13時頃のバスに乗られるということで別れ、他の4人で再び高木が生い茂る尾根道を浅間山、高麗山と歩き、高来神社には13:20頃に着く。



湘南平にて

高来神社の祭神は、カムムスビノカミ、ニニギノミコト、応神天皇、神功皇后の四柱である。三韓征伐の伝承を思わせる系譜である。1879年までここは高麗神社であったという。高句麗系の渡来氏族の祖神を祭る神社であったとも云われる。時代の潮流の中で変わって行ったことが窺える。その祭神にかかわらず、訪れる人の祈りは異なる思いもあるのかもしれない。

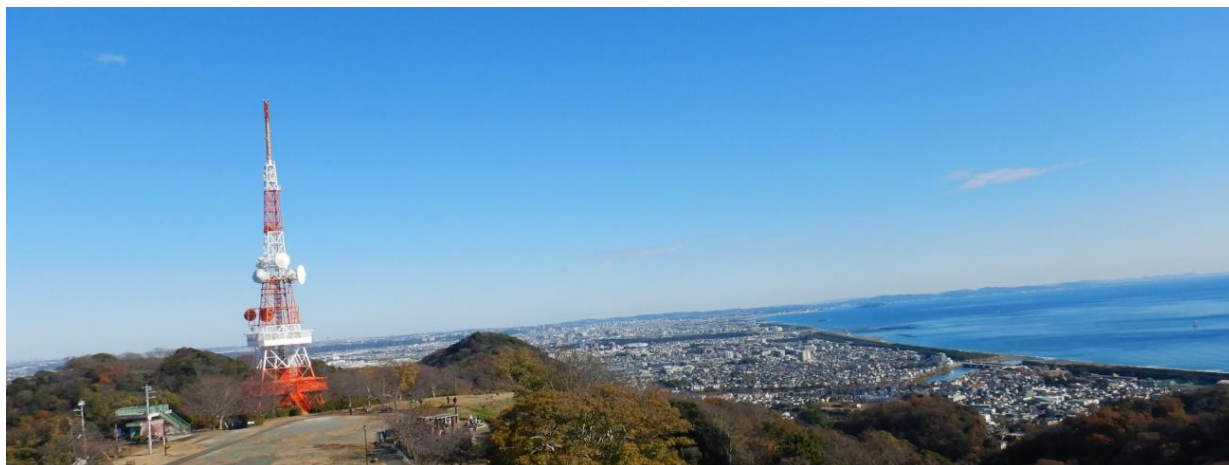


高来神社

高来神社からは東海道を行く。街道に僅か残る松林や家並みが、何となく弥次喜多道中を思い起こす江戸の雰囲気である。

旅の終わりに、OTさんの案内で街道沿いにある由緒正しい蕎麦屋さん車屋にてわらじを脱ぎ、お酒と大きな海老天、そして美味しいお蕎麦を頂きました。冬なお暖かい湘南の山海に、古代の関東の一端に触れる旅にもなりました。

大磯駅（10:00）～高田公園（10:35）～楊谷寺谷戸横穴墓群（11:20）～湘南平（11:55～13:02）～浅間山～高麗山～高来神社（13:15）～蕎麦屋車屋（14:00）



湘南平からの海と山